



広報紙

よくゆく

ホームページアドレス: <http://www.mod.go.jp/gsdf/mae/macb/49i/index.htm>

第163号
令和6年 4月 5日
49普連広報班

令和6年能登半島地震 災害派遣



情報収集



輪島市町野町



ヘリによる人命救助



令和6年1月1日午後4時10分、石川県能登半島を震源としたマグニチュード7・6、最大震度7の地震が発生、連隊は同日午後4時27分に第3種非常勤務態勢に移行、翌1月2日に第10特科連隊第3大隊に第1中隊基幹（中隊長 3等陸佐 佐藤邦浩）を配属し救助隊59名を石川県輪島市に派遣した。1月3日現地に到着した救助隊は即座に活動準備及び情報収集を行い



物資をリレー運搬



1月4日には石川県輪島市町野町を活動地域とした人命救援活動を開始、警察及び消防と連携し生存者及び安否不明者の救出を実施した。1月7日から即応予備自衛官90名を招集、重迫撃砲中隊基幹（中隊長 3等陸佐 長井雅樹）による生活物資の仕分け作業及び物資輸送を開始、常備自衛官と即応予備自衛官が一体となって任務を遂行した。



物資の仕分け



崩壊道路を物資輸送



海岸沿いを物資輸送

私は即応予備自衛官（以下「即自」）六年目になります。今回の能登半島地震による災害派遣は、即自として二度目の災害派遣となります。一度目は、私が即自になったばかりの平成三十年七月西日本豪雨災害の時でした。

前回に続き、今回の災害派遣に参加して思った事は、災害派遣後速やかに招集に応じられるよう、また被災地での活動に支障が生じないよう『日頃の活動に支障が生じないよう』ということでした。まず、何時かかるか分からない招集に備えて、日頃から業務を適正に管理する事はとても重要です。私の場合は個人事務所を経営しており、仕事に遅れが出ますと顧客に営業上の損失を与えます。営業許可を取得するのが遅れたり、許可の更新を逸したりすると、顧客はその期間業務をできなくなるからです。

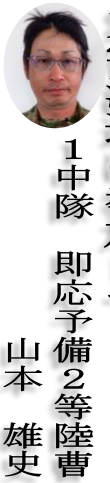
次に、災害派遣において『基礎体力と体調管理』は必須です。それらが欠けると、被災地における部隊からの要請に充分に答えることができないからです。ですから、私たちは日頃から体力の維持向上に努めなくてはなりませんし、健康管理にも留意しなければなりません。

最後には、私たちの災害派遣活動の背景には家族や顧客、友人など多くの人の支援があることも忘れてはなりません。ここに改めて感謝の気持ちを伝え、日常の業務と訓練に励みたいと思います。

災害派遣に参加して
2中隊 即応予備2等陸尉
行岡 聖洋



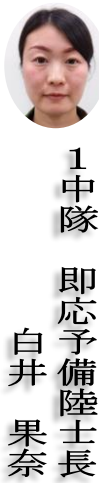
災害派遣に参加して



1中隊 即応予備2等陸曹 山本 雄史

私が能登半島地震災害派遣に参加した動機ですが、現職時に阪神大震災の災害派遣での人命救助で、多くの命を助けられなかった為その教訓を生かし、1人でも多くの被災者を助けたいと思って志願しました。その当時のビルや家屋の倒壊は今でも目に焼きついていて今回の地震も同じような光景で胸が苦しかったです。それでも私は即応予備自衛官である以上国民の命を守るという強い意識をもって任務を全うできたと思います。

災害派遣に参加して



1中隊 即応予備陸士長 白井 果奈

まず、本懐を遂げる事ができた事を光榮に思います。そして、実際初めて行ってみて今回の災害派遣がいかに難航するか実感しました。それは能登半島の特異な地形とマグニチュードの数値にあると思います。なぜなら17年前の門前を襲った地震も同じ規模で道が壊れ、崖が崩れ、家が倒壊したにも関わらず死者が1名だったこと、地震発生から一週間で家屋に赤札が貼られ次の一週間御後には更地になった穴水駅前前の整った光景を見ているので、今回15日に出頭しその目で見たものと比較するものが自分の中にありました。

そして、もちろん即応予備自衛官だからできる支援が自分にもあるはずと信じて望み、実際その支援に対しての大小にこだわりはありませんでした。指示された任務を全力でやろうと思いましたが、それが待機だとしても、そこに自分たちがいるから前線の方々が動けるとこれが防衛

に置き換え信じてました。逆にやりたい事と出来る事の違い、即応予備自衛官として個人として出来る事の見極めが出来たのでとても勉強になりました。自分たちの拠点や前線に物資輸送したり、いつ飛んでくるか分からない砲弾等にどう対応するか、また地震発生してどう対応するかをシュミレーションしてました。今回自分の仕事が活かせる方向を即応予備自衛官として見いだせたのが良かったです。普段は盆踊りイベントや福祉施設でのパフォーマンスをしているのでそのスキルを使って避難所を周りで体操や気分転換になるよう被災者を少しでも元気づけたいです。

災害派遣に参加して



5中隊 即応予備3等陸曹 菊山 謙

私は、平成19年10月から平成23年3月まで石川県金沢市にある国立病院機構金沢医療センターに勤務してました。地域医療連携係長として石川県の各医療機関円滑な連携ができるように顔の見える関係を築く為に石川県内の医療機関を訪れていました。その中で石川県の自然・文化に触れて石川県が大好きになり愛着をもっていました。今回、その大好きな石川県で災害が発生して大きな被害が出ていることに心に痛めていました。今回災害派遣の応召確認メールが届き1日でも早い復興のために微力ながら貢献したい、被災した方々を勇気づけたい思いから今回災害派遣を志願しました。また、同年2月に自宅が延焼被害により全焼しました。小さな災害でしたが絶望感に苛まれました。その時周りの方や見ず知らずの方も含めた人に温かい支援をいただいたおかげで立ち直ることが出来ました。そのようなこともあり、次は私がご恩返しを被災者の方を励ましたいと思いました。

VOICES



最先任上級曹長を拝命して 連隊本部 准尉 安田 勝之

令和6年3月18日付で第8代連隊最先任上級曹長を拝命する事になりました。平成22年に入隊、35普連(守山)、コア普通科連隊準備隊(豊川)、そして49普連において、通信陸曹、訓練准尉、3科運用訓練陸曹、先任上級曹長として、平成16年新編以来、約20年間勤務してきました。コア普通科連隊である我が連隊は、骨幹である常備自衛官と普段は、企業戦士として活躍している即応予備自衛官により構成されています。特に、即応予備自衛官については、年間最大30日間という少ない訓練日数で教育及び訓練を実施し、練度の維持・向上を図らなければならぬ、大変厳しい状況であることを踏まえ、即応予備自衛官を直接指導する立場である常備自衛官の成長は非常に重要であると考えています。連隊長要望事項である「無限の錬磨」、「明るく、楽しく、前向きに」を具現化するために、最先任上級曹長として常備自衛官及び即応予備自衛官の准曹士の先頭に立ち、この崇高な職務に上番できることに「感謝」をし、連隊の伝統の継承及び任務達成の為に、努力を続けてまいりたいと思います。



下番最先任塩原准尉



上番最先任安田准尉



重迫撃砲中隊長 田中 1尉

【統率方針】

「最優先」

【要望事項】

「太陽のように明るく」「感謝無敵」



第5中隊長 早川 1尉

【要望事項】

「やるときはやる」



第2中隊長 友田 1尉

【統率方針】

「任務の完遂」

【要望事項】

「自ら考え判断し行動せよ」



中隊長着任式

連隊創隊20周年記念行事



20周年記念式典



巡 閲

令和6年3月31日に豊川駐屯地において連隊創隊20周年行事を連隊後援会・連隊OB会・隊員家族を招待して盛大に実施した。午前には記念式典・観閲行進、午後からは祝賀会食・装備品展示・体験試乗・アトラクション（三河陣太鼓・ビンゴ大会）を実施、最後は副連隊長（2等陸佐 坪井 紀樹）による万歳三唱をもって行事を締めくくった。



観閲行進



国旗に敬礼



定期異動

新指揮官・幕僚紹介

- 副連隊長 坪井 紀樹 (のりき)
- 第1科長 長井 雅樹 (まさき)
- 第2科長 松浦 逸起 (いつき)
- 第2中隊長 友田 進 (すすむ)
- 第5中隊長 早川 勉 (つとむ)
- 1等陸尉 田中 太朗 (たろう)
- 1等陸尉 安田 勝之 (かつゆき)
- 重迫中隊長 田中 太朗 (たろう)
- 1等陸尉 田中 太朗 (たろう)
- 最先任上級曹長 やすだ かつゆき
- 准陸尉 安田 勝之 (かつゆき)



転入者

- 連隊本部へ
- 2佐 坪井 紀樹 (中方総監部・伊丹から)
- 本部管理中隊へ
- 曹長 増井 慎也 (装実隊・富士から)
- 第1中隊へ
- 1尉 小田 聡司 (4曹教・大津から)
- 2曹 津田 章成 (豊川駐業・豊川から)
- 2曹 小谷内 納 (7普連・福知山から)
- 2曹 井上 明広 (評支隊・滝ヶ原から)
- 3曹 田口 隼 (14普連・金沢から)
- 3曹 北方 星悟 (14普連・金沢から)
- 第2中隊へ
- 1尉 友田 進 (中方総監部・伊丹から)
- 2曹 小坂 訓史 (36普連・伊丹から)
- 3曹 来光 直樹 (14普連・金沢から)
- 第3中隊へ
- 1曹 片瀬 広樹 (40普連・小倉から)
- 2曹 本井 純 (14普連・金沢から)
- 3曹 野久保 峻介 (35普連・守山から)

令和6年3月18日付

部内異動

- 第4中隊へ
- 2曹 池ノ上 祐紀 (35普連・守山から)
- 第5中隊へ
- 3曹 谷口 大悟 (14普連・金沢から)
- 重迫撃砲中隊へ
- 3曹 渡 幸一郎 (14普連・金沢から)
- 連隊本部へ
- 3佐 長井 雅樹 (重迫中から)
- 1尉 松浦 逸起 (2中から)
- 3尉 濱 大輔 (重迫中から)
- 准尉 安田 勝之 (3中から)
- 本部管理中隊へ
- 2曹 鈴木 秀征 (2中から)
- 2曹 菅野 正人 (3中から)
- 2曹 金丸 勇作 (5中から)
- 3曹 駒田 信市 (2中から)
- 第2中隊へ
- 2尉 河附 里志 (4中から)
- 第5中隊へ
- 1曹 山道 一仁 (本管中から)
- 重迫撃砲中隊へ
- 1尉 田中 太朗 (連本から)
- 曹長 田口 勝己 (本管中から)

令和6年3月18日付

栄転

- 連隊本部
- 1尉 山下 靖治 (豊川駐業・豊川へ)
- 2尉 野崎 勇一 (静岡地本へ)
- 准尉 塩原 貴弘 (守山駐業・守山へ)
- 本部管理中隊
- 1曹 竹田 真紀 (愛知地本へ)
- 2曹 久保井 和親 (35普連・守山へ)
- 第1中隊
- 1曹 渡久地 順 (35普連・守山へ)
- 1曹 久松 超 (37普連・信太山へ)
- 2曹 森杉 伸一 (36普連・伊丹へ)
- 2曹 木下 裕揮 (14普連・金沢へ)
- 2曹 林 大地 (35普連・守山へ)
- 第2中隊
- 1尉 古川 淳滋 (水機団・大村へ)

令和6年3月18日付

栄光

- 第3中隊
- 1曹 駒田 秀作 (35普連・守山へ)
- 2曹 大塚 明宏 (板妻駐業・板妻へ)
- 第4中隊
- 2曹 倉知 真貴 (春日井駐業・春日井へ)
- 第5中隊
- 3佐 菊田 光祐 (幹候校・前川原へ)
- 2曹 尾崎 一弥 (高工校・武山へ)
- 重迫撃砲中隊
- 1曹 成瀬 貴久 (10後支付・春日井へ)
- 2曹 小野 智嗣 (47普連・海田市へ)
- 混成団長表彰
- 第3級賞詞 (職務遂行)
- 第5中隊 3佐 菊田 光祐
- 重迫中隊 3佐 長井 雅樹
- 第2中隊 1尉 古川 淳滋

令和6年3月6日付

連隊長表彰

- 第4級賞詞 (職務遂行)
- 連隊本部 1尉 田中 太朗
- 同 2尉 野崎 勇一
- 本部管理中隊 2曹 後藤 伸一
- 第1中隊 2曹 森杉 靖
- 第2中隊 1尉 松浦 逸起
- 同 2曹 二階 充貴
- 第4中隊 2曹 倉知 真貴
- 第5級賞詞 (職務遂行)
- 本部管理中隊 1曹 山道 一仁
- 同 2曹 久保井 和親

令和6年3月13日付

祝 定年退官

副連隊長 有馬 2佐 は、3月15日(応募認定)により1等陸佐に特別昇任し、豊川駐屯地を後にした。



令和5年度後期転出者



職務遂行による表彰

Gallery Forty Nine



災害派遣出発式(1.2 豊川)



安否不明者情報収集(1.4 輪島市)



安否不明者搬送(1.5 輪島市)



即応予備自衛官編成完結式(1.7 金沢)



物資の輸送(1.8 輪島市)



上級特技検定【ATM】(2.29 日吉原)



上級特技検定【迫撃砲】(3.9 日吉原)



上級特技検定【軽火器】(3.9 日吉原)



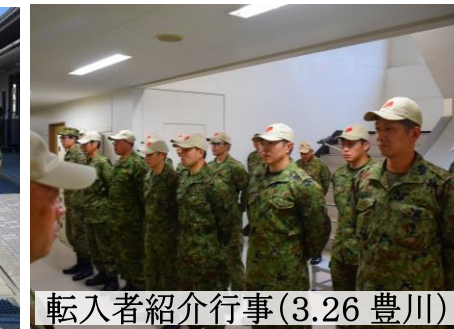
隊内生活体験(3.11 豊川)



転出者見送り(3.15 豊川)



有馬2佐定年退官(3.15 豊川)



転入者紹介行事(3.26 豊川)



新着任者教育(3.26 豊川)



20周年記念式典(3.31 豊川)



体験試乗(3.31 豊川)



三河陣太鼓(3.31 豊川)



ビンゴ大会(3.31 豊川)



副連隊長による万歳三唱(3.31 豊川)